



これで困った!

「片付かないもの」への対処法

捨てるに困った親の物、解決策はこれだ。

ライター・平林理恵

積もりに積もった実家の荷物。親世代はなかなか捨てられない

玄関

販売で買った衣類が未開封のまま積み上げられて迷路のよう。ソファの上にもベッドの上にも収納しきれなくなつた衣類が積み重なつている。その山をかき分けてたどり着いたタンスの奥から三十数年前に大流行したブランド服やかび臭い着物が出てきた——。実家の片付けに出向き、衣類・小物類の多さに愕然とする人は少なくない。

すぐさまこの山を切り崩そうとした子どもが直面するのが、親の「もつたいない精神」だ。物のない時代を生きてきた親世代は、物を捨てることに罪悪感を抱きがち。どんなに流行遅れでも古ぼけていても、まだ着られるなら捨てずに取つておく。その一方で、流行の服は、通販で自宅に居ながらにして手に入る。どんどん入つてくるのに一向に出ていかない、その結果が膨大な衣類の山なのだ。

この山の中から、何を残し、何を捨てるか。「着る」か「着ない」かだけでは決められないのは明らかだ。親自身だって、自分がもう一度と身に着けることがないことはわかっている。にもかかわらず捨てられ

衣類・小物

「そんな親御さんには、リサイクルショップに引き取つてもらい必要

な誰かに使つてもらおうと提案しま

しょう。捨てずに済むのなら、と案外放してくれるもので」と指摘

するのは、女性だけの整理収納サービスを行うサマンサネット代表の杉之原富士子さん。廃棄処分に比べると一歩間かかるものの、親の気持ちをくむことが結果的にはスマートな片付けにつながる。

洋服の片付けに最適

リサイクルショップやリユース店に物を買い取つてもらうには、以前なら店頭に品物を持ち込むことが普通だつた。そんな中、手軽さで利用者が急増しているのが、インターネットで申し込み、宅配便で品物を送る「宅配買取りサービス」だ。査定金額は後日知らされる仕組み。荷物を抱えて店頭に行く必要がないから、実家の片付けのような買取り希望点数が多いケースには非常に使い勝手がいい。

とはいって、衣類やバッグなどのファッショナブルアイテムは、販売時期から時間が経つと急速に商品価値が下がつてしまつ。各店ともトレンド重視の買い取りを行うため、発売から数年以内、もしくは保管状態のよい

高級ブランド品でもないかぎり高価は期待できない。手間をかけて段ボール箱に詰めて送つたのに、結果は5点で100円、15点まとめて400円ということも。杉之原さんは、「親の持ち物のリサイクルやリユースで高値は期待しないほうがいい」とくぎを刺す。親が納得する形で不用品を処分できたのであれば、それでよしとすべきなのだろう。

一方、年代物の古着といつた国内での再販売が難しいような物でも引き取つてくれる業者もある。ドンドンダウンオンラインエンズディは、「どんな服でもすべて断りなしで買い取り」が売り。ブランド品は1点ずつ査定をするが、それ以外は1キログラム当たり10~500円で買い取る。「日本で売れないものは海外の中古市場で販売しています」(運営会社のドンドンアップ)。買取りは全国64店舗の店頭で行つている。

『親の家をどう片づける』の著者で生前整理アドバイザーの上東丙綱様さんは、「自治体の古着・古布回収にきちんと出せば、着られるものは中古衣料として、着られないものはウエス(工業用ぞうきん)として再使用されます。廃棄処理されると誤解している親世代も多いもの。よく説明すれば親の気持ちを軽くすることにつながるのでは」と、アドバ